

第五十回 病気と背骨と歯の咬み合せの関係

“病気と背骨と歯の咬み合せの関係”

①病気をひきおこしていますと必ず頭蓋骨、首の骨、背骨、骨盤等のズレをひきおこしているものです、病気と関係のある背骨の骨が前方にズレますとそれに関係する首の骨は後方にズレるものです。つまり首の骨と背骨の前方のズレ、後方のズレは互いに逆方向にズレるものです。

これらの骨は前方・後方のズレだけでなく回転の捻れもおこしているものです。

たとえば首の1番上の骨である頸椎1番は左回転をおこし、首の上から2番目の骨が右回転し、首の上から3番目の骨は左回転しますと首の骨と背骨は互いに補正するもので背骨の1番したの骨であるよう腰椎5番も左回転をし、背骨の下から2番目の骨は右回転、背骨の下から3番目の骨は左回転するものです、首の骨と背骨の捻れは同側に捻れるものです。

本来はこの補正し合っている部位をアジャストすれば正常に戻るものですが時間が経てば又元に戻るとなれば歯の咬み合せのバランスが原因となるものです。この場合は歯の咬み合せの高さは右側の方に1ヶ所高いところがあり、左側は2ヶ所高いところがあるということです。歯のかみ合わせの高さを調整すると首の骨・背骨の骨の捻れがとれるだけでなく首の骨、背骨の前方のズレ・後方のズレは一瞬に無くなりそして血の流れがよくなり、足は軽く、身体全体が軽く感じるものです。

文章の内容が前後しますが、背骨の骨が前方にズレますと身体の機能低下、逆に後方にズレますと機能亢進となります。

②例をあげますと肺・気管支が悪いと背骨の上から3番目の骨が前方にズレ、胃が悪いと背骨の上から5番目の骨が前方にズレ、膵臓ですと6番目、肝臓ですと8番目、腎臓ですと11番目、12番大腸ですと背骨の下から2番目、前立腺、子宮ですと背骨の1番下の骨が必ず前方にズレをおこしているものです。

これらの骨が前方にズレをおこしていますと必ず背骨の下から3番目の骨である腰椎3番が必ず前方変位をおこしているものです。

この腰椎3番が前方変異をおこしていますと必ず頭から足先迄冷え性となります。

病気をおこしていますと冷え症がつきものです。

又健康な人に腐った食べ物を持たせるだけで瞬時に背骨の上から10番目の骨と背骨の下から2番目の骨が前方変位をおこしそして腰椎3番目の骨も前方変位をおこすものです。つまり小腸と大腸に異常を起こし血流が悪く冷え性ぎみになるものです。

また背骨の下から3番目の腰椎3番の骨が異常を示しますと腺関係の異常を示しています。唾液腺、偏頭線、甲状腺、乳腺、前立腺等のうちどれかが異常をおこしているものです。腰椎3番が前方変位をおこしますと機能低下つまり冷え症、免疫力の低下、体のむくみをおこすものです。逆に後方変位をおこしますと機能亢進となり甲状腺以外は余り自覚症状がない様です。甲状腺の機能亢進は汗がでやすく、イライラしたり体が熱っぽかったりするものです。

③そして顎関節症と関係のあるのは唾液腺です

顎関節の前には唾液腺の3つのうちの1つである耳下腺があります、腰椎3番が前方変位をおこし体全体がむくみ耳下腺にも異常をおこしていますと耳下腺及び周囲に血流が悪く耳下腺、顎関節周囲も腫れる為 下顎が前方に押し出されるものです、片方の耳下腺だけの場合もあり左右の耳下腺の場合もあります。左右の耳下腺の場合は、下顎が前方に押し出される為に上下の歯の咬み合わせが合わなくなったり、又顎間接部に隙間が出来て口を開閉する時に音が鳴ったりする場合があります。

血流をよくする為には顎関節症又は頭蓋骨硬膜の緊張をとった上で歯の咬み合わせのバランスをとることです。

歯の咬み合わせのバランスが合っているか確認をする為に、左右同時に人差し指のツメ側を上顎外側の歯の歯肉に沿って奥の奥へ入れますと下顎の骨との隙間にたどりつきます、この左右の隙間があっていないということは歯の咬み合わせのバランスが狂っているだけでなくまだ多少頭蓋骨及び体全体ががまだズレをおこしていることです。

この隙間を左右均等にしても体に合わない薬を手で持たせるか又は腐った食べ物を持たせるだけでこの隙間が瞬時に狂ってくることとなります。この隙間が左右狂うと顔のほほ骨も左右が前後に狂うだけでなく左右の足の長さ及び体の胴体部も捻れるものです。